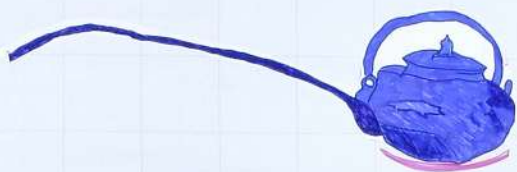


ここですか
作れない
佐賀の「技」



鍋島小学校

6年 溝口葉月

みぞぐち

はづき

肥前びーどろ

副島がラス工業



なぜ調べよう

と思ったか



幕末維新を4回観に行った。しかし、「佐賀の人は、オジイ人ばかりだと思いました。」

佐賀の「技」をもっと知りたいと思いました。調べたところ、

近くに肥前びーどろがありました。



副島がラス工業

の歴史



佐賀藩鍋島直正公が、1852年夕布刈川のほとりに「精煉方」(今言う理化学研究所)を設置したことが始まりとされています。精煉方は、もともと生活必需品(金魚鉢・薬ひなど)や、学術研究所のために必要な道具を作った場所で、当時では珍しいがラス窓が築かれ、主に科学実験のためのビーカーやフラスコが作られました。

明治維新に入りランプや食器を作り、精煉所という民間会社となり、そこから明治36年に独立した副島硝子工業を創業。現在では肥前びーどろを製造する唯一の工房となりました。



副島がラス工業

だけの技



にじいろうシリーズのものがラス工業のようは、と色の小さな
つぶをとなめいら色をついて、ここの細文シリースは、Hこの
そしてあといつ、す。う的にも見えますが、これは、
もようがとくろよ書はとても簡単になら生みださ
このは、手書下、と、焼きたら
とくしゃむすかしく、
とても下す。



肥前びーどろだけに残る

「ジャッパン吹き」



現在下は肥前びーどろだけに伝わった。がラスで作られた
二本のさおを使う伝統の技。「ジャッパン吹き」
一般的に使われる鉄製の吹き竿を使用せず、ガラス管の吹き
竿を使う「ジャッパン吹き」ことにより、空身以外のものに触れる
ことがないため、よりなめらかな肌合いに仕上がる。と
サトウ



思っ たこと



私は、見学に行った時、にじいろうシリーズの味を止まり買いまし
た。自分が買ったグラスの下、佐賀の誇りを、佐賀のすばらしいこと、心に残った副島がラスの肥前
毎日、使っている佐賀の幕末維新を見て、本身に佐賀を誇りに思
私成住ん下佐賀を調へて、
びーどろを



サトウ